

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みんぐるくらぶ・町田自然ルーム		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 28日		2026 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2026年 3月 16日		2026年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別に応じた支援(個別療育→集団療育への移行含む)ができている 活動内容の工夫が多く、子どもが飽きない・興味に合わせたプログラム提供ができている	子どもの興味・発達段階に応じた活動の毎回の調整 運動・手先・言語など多領域を組み合わせたプログラム構成 視覚的に分かりやすい環境設定(仕切り・ゾーニング)	活動ごとの空間活用の見直し(運動時の安全確保・人数調整) 支援マニュアルや共通の関わり方の整理(標準化)
2	運動・微細・言語など多面的な支援がバランスよく行われている 環境設定(仕切り・物の配置)が整理されており、集中しやすい	活動後の丁寧なフィードバックと保護者との対話 個別支援計画への保護者意向の反映	ケース共有・研修による専門性の底上げ 代替職員用の引き継ぎシート・支援内容の事前共有
3	保護者へのフィードバックが丁寧で、相談しやすい関係性が構築されている 外部資源(園・地域・制度)の情報提供が充実している 連絡手段が多く、柔軟に対応できている 保護者の不安に寄り添う姿勢(傾聴・肯定的関わり)が評価されている	外部機関や地域資源の情報提供 プライバシー配慮を踏まえた情報発信 複数の連絡ツールを活用した柔軟なコミュニケーション	系列園・訪問支援のフィードバック方法の明確化(頻度・内容) 保護者交流会や情報共有の場の設定 活動の「継続性」と「変化」のバランス設計

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動時にスペースが狭く感じられる場合がある トイレと手洗い場の動線に不便さがある	物理的環境(スペース・設備)の制約	代替職員時でも安心できる「いつも通り感」の担保 (例:基本課題は維持+一部のみ変更)
2	保護者同士の交流機会が不足している	代替職員対応時の引き継ぎ・標準化の不十分さ	スペースの使い方の工夫 保護者への連携状況の「見える化」(訪問・園連携など)
3	活動内容が多様な一方で、継続性や一貫性への不安が一部ある	保護者支援(交流機会)の仕組み不足	保護者同士のつながりを作る機会の創出 写真や活動内容の可視化による理解促進(安全配慮を前提に)